

千葉県
手をつなぐ育成会だより

第 176 号

令和 7 年(2025) 7 月 9 日

千葉県手をつなぐ育成会

会 長 成 田 智 子

千葉県稲毛区作草部2-4-5

でい・さくさべ 2 階

TEL・FAX 043-206-4050

✉ chibacity-hands@ikusei-kai.jp



千葉県副市長 大木正人 様

新生活 スタート

娘は春に卒業し、4月から就労、電車通勤しています。

昼食は、ありがたい事に実習の時から、社員食堂を利用して頂いています。今日は何食べたの?と聞く
と「うどん」が多く、人気の定食は売り切れていたり、カレーにチャレンジしたら辛かったと言っていて、メニュー選びに苦戦中。でも話を聞いていると、同じ職場の方々と一緒に食堂へ行き、食べ終えて一緒に食堂を出る様です。食べるのが遅い娘の事を待ってくれる方がいるようで、本当にありがたいと思います。

暑くなってきた水筒の心配をする
と、自動販売機がたくさんあるから水筒の身が無くなったらそこで買うから大丈夫。それで自動販売機に同じ料金で2本飲み物が出てくるボタンがあつて、でも何が出てくるかわからない。この前は麦茶とエナジードリンクが出てきたから先輩と分けてこしたんだ。と話してくれました。帰宅後、話をしながらおやつと夕ごはん。以前より食べる量が増え、この夏を乗り越えてくれそうで嬉しく思っています。

(広報部 西村)

娘の進路先は隣市の生活介護事業所への通所となりました。

小学部在学中に、学校の先輩の紹介で通い始めた放課後デイサービスと同じ法人が運営していて、学齢期の子ども達と卒業後の大人と一緒に活動することも多く、利用者さんとも職員さんみんなよく知る仲で、とても温かみのある事業所です。

面談等で事業所へ伺うと、いつも楽しそうに笑う娘の声が聞こえて来て、この環境で過ごせたら何よりだな、言葉の表出がほとんどない娘が話せるとしたら「ここがいい」と言うだろうな、とずっと感じていました。

実習段階から卒業後の通所を見越して本人の課題やオペレーションの工夫を重ねてくださり、また、両親ともにフルタイム勤務のわが家のニーズにも応えて頂き、朝8時半に自宅へお迎え、18時に自宅へ送り届けていただけるように準備をしてくださっていたため、職場へ少し勤務時間の調整をお願いする程度で仕事の継続が可能となりました。

通所を開始した後、本人の体調やメンタルが乱れることは全くなく、毎日楽しそうに過ごしています。

長い目で見ると、今後の課題や不安はいろいろありますが、ひとまずは一安心。引き続き楽しく元気に過ごせるように寄り添っていきたいと思います。

(会員 齊藤)

令和7年度総会

育成会活動とこれから

5月29日(木)、でい・さくさべ会議室にて第72回定期総会が開催されました。出席者47人、委任状提出301人で過半数を超え、総会は成立しました。

20名のご来賓を代表して、参議院議員 社会福祉法人春陽会理事長 臼井正一様の秘書の大森裕志様(臼井様のメッセーじ代読)、千葉市副市長 大木正人様(神谷千葉市長のメッセーじ代読)、千葉市教育委員会教育次長 中島千恵様の3名からご挨拶をいただきました。

【議事・基本方針】

令和6年度事業報告、決算報告及び監査報告、令和7年度事業計画案、組織図案、予算案及び役員一部改選案はすべて承認されました。

今年度の基本方針は、知的障害のある人が、それぞれの生活する地域とつながり、社会の一員としていきいきと自分らしく暮らしていくために、支援の制度や確立を要望していくこと、本人の権利擁護に向けての活動をしていくことです。

組織図内の総務部は、その活動内容を鑑み、位置を変更しました。

役員改選では長年副会長としてご尽力いただいた大里さんが退任され、29名が役員として承認されました。

また本年度、千葉市手をつなぐ育成会が70周年を迎えます。70周年記念誌を配布させていただくとともに、70周年記念行事を開催いたします。

育成会のうごき 3月~6月

- | | |
|----------------|--|
| 3月6日 | 令和6年度成年後見制度利用促進に係る地域連携ネットワーク協議会(オンライン) |
| 7日 | 千葉県手をつなぐ育成会権利擁護委員会勉強会(P.3) |
| " | 令和6年度第5回千葉市障害者施策推進協議会 |
| 7.12日 | 市立養護学校・千葉大学教育学部附属特別支援学校卒業式 |
| 17日 | 第13回千葉市バリアフリー基本構想推進協議会 |
| 26日 | 令和6年度障害者福祉団体会議
(社福)千葉市社会福祉協議会令和6年度第3回評議員会 |
| 4月7.8.9日 | 大宮学園・市立養護学校・千葉大学教育学部附属特別支援学校入学式 |
| 19日 | さくさべ会総会 |
| " | でい・まさご20周年セレモニー |
| 25日 | 大宮学園説明会 |
| 5月11.14日 | 第33回千葉市ゆうあいピック(P.3) |
| 21日 | 千葉大学教育学部附属特別支援学校評議員会 |
| " | 令和7年度第1回千葉市障害者施策推進協議会 |
| 26日 | 千葉県手をつなぐ育成会権利擁護委員会 |
| " | 第24回全国障害者スポーツ大会千葉市代表選手選考会 |
| 27日 | 社会福祉法人千葉市手をつなぐ育成会理事会 |
| 29日 | 令和7年度第72回総会(P.1) |
| 6月2日 | 市立養護学校評議員会 |
| 3.4.6.9.13.19日 | 各区おしゃべり会 |
| 5日 | 令和7年度特別支援連携協議会 |
| 10日 | 関東甲信越ブロック手をつなぐ育成会連絡協議会代表者会議 |
| 11日 | 社会福祉法人千葉市手をつなぐ育成会評議員会・理事会 |
| 27日 | 施設見学 みらい工房(こども委員会) |

はたらく委員会親子活動 お花見(梅)ウォーキング

2月23日(日)、青葉の森公園でお花見ウォーキングを開催し、参加者は親子5組10名でした。

爽やかに晴れ渡る空の下、ほのかに香る、赤や白など様々な可愛らしい梅の花を見ながら、写真

を撮ったりおしゃべりしたり、のんびりと歩きました。皆さんの笑顔にも癒された素敵な時間となりました。

(理事 村井)

この広報紙は「赤い羽根共同募金」の助成により発行されています。



【法人の動き】

社会福祉法人千葉市手をつなぐ育成会の栗原理事長からは、大規模災害を想定した実践的な訓練と職員の防災教育を実施すること、育成会70周年を迎え、皆様のこれまでの想いを忘れずに日々の支援事業を行うこと、グループホーム入居者への権利擁護の働きかけを行うこと、育成会との相互理解を深め、法人独自の事業化を視野に入れて進めた

い等のお話がありました。

(理事 加藤)

その人らしい暮らしができること 会長 成田智子

現在、各地域にはグループホームが増えて、入居される方も多くなりました。そこで暮らしはどのようなものなのでしょう。

本年度より、「地域連携推進会議」が義務化となります。

これは、居住系サービスである障害者支援施設及び共同生活援助(以下「施設等」)において、地域の関係者を含む外部の目を入れた会議・事業所を見学する機会を、概ね年1回以上設けるというものです。

①利用者と地域との関係づくり
②地域の人への施設等や利用者に関する理解の促進

▶ 今年度の正副会長 ◀

役 職	氏 名	担当部	担当委員会
会 長	成田 智子	総務部	こども
副会長	藤 芳 晶	レク部	あんしんも
副会長	神山 育代	研修部	あこせいかつ
副会長	御代 睦子	広報部	はたらく

よろしくお願いします

③施設等やサービスの透明性・質の確保
④利用者の権利擁護を目的としています。どの施設等も、義務化されたことにより、地域と連携をはかる機会が得られることになりました。

住まう利用者本人が会議の構成員になることで思いを発信したり、地域の方々との関わりをもつことで、暮らしやすさや安心感が大きくなると思います。日々の暮らしの中でご本人の思いが尊重され、安心した地域生活ができるよう、有意義な会議となりますように願っております。

2024年度育成会フォーラム パネルディスカッション

知的・発達障害のある人の 『住まい』や『暮らし』を 考える



進行は（一社）全育連常務理事兼事務局長又村あおい氏。まずは、登壇者お一人ずつのお話を伺いました。

植草学園大学副学長

野澤和弘氏

入所施設のあり方検討会の全国アンケートでは、多床や日中活動も敷地内の施設が多く、地域移行が進められていないこともわかる。本人の地域生活への移行に関する意向の把握、定期的確認が必要になるが、どのようにして地域移行を進めていくか課題である。強度行動障害の方の受入体制の強化やそのための人材育成についてもお話されました。

全育連政策センター専門委員

片桐公彦氏

施設入所者にはG Hにはない補足給付金があり、手元にお金が残る仕組みがある。厚労省でも他制度とのバランス、在宅で生活する障害者との公平性等、対策を検討しているが、この差が地域移行の進まない要因の一つで

もある。

また、入所施設の機能はあくまで「住まいの場」であり、自分だけの空間や時間が保たれ、また、通所、外出系のサービスを利用できるよう議論すべきというお話でした。

全育連政策センター委員長

高木誠一氏

障害者の重度・高齢化の中でどのように地域移行を進めていくか、地域生活の基盤を作っていくかが課題。G Hも地域で当たり前に暮らせる基盤になっているか。地域連携推進会議に期待している。地域医療や看取りの体制についてのお話もされました。

後半のディスカッションタイムでは、必要な方は、介護保険サービスに移行又は併用することも考えていくてほしい。そのために障害者サービス区分と同等の介護度が出る仕組みになるよう育成会でも要望していくてほしい。地域移行の意思確認には情報や体験、複数の選択肢があり、長期的な示唆が必要である。との意見がありました。

最後の佐々木会長のコメントでは地域移行はなかなか進まない。育成会でも声を上げていかないといけない。親は本人の意思が尊重されて笑顔で暮らしていくことを望んでいる。そんな地域が作れるよう取り組んでいきたい。とおっしゃっていました。

（広報部 前田）

たくさんさんの協力と笑顔 ～ゆうあいピック～

5月14日（水）、第33回千葉市ゆうあいピックが開催されました。（卓球は5月11日）

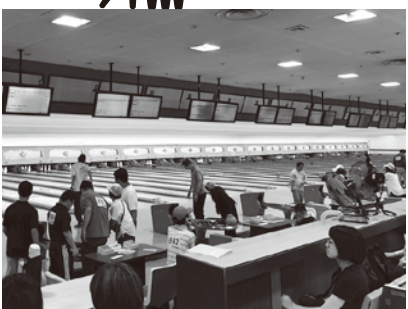
知的障害者スポーツの発展を図るとともに、知的障害者に対する理解と認識を深め、知的障害者の自立と社会参加の促進に寄与することを目的に行われています。陸上、フライングディスク、ボウリング、水泳、卓球の各競技があり、大勢の選手の方が参加されました。今大会も、たくさんさんのボランティアの皆さん、大会関係者の方々のご尽力に感謝いたします。

フライングディスク



フライングディスク競技は、午前中に的を狙うアキュラシー競技、午後に投げた距離を競うディスタンス競技が、青葉の森スポーツプラザ野球場で

ボウリング



会場であるアサヒボウリングセンターの1レーンから30レーンまでを使わせていただき、ボウリング競技が行われました。

快音を響かせスコアを伸ばす壮年の選手、ガターの途中でボールが止まってしまった中学生の選手、ボランティアの方や介助、引率の方々に見守られ、一緒にハラハラドキドキ。ガッツポーズや互いにハイタッチで喜びあうなど、スポーツを楽しまれていました。

選手の皆さんの一生懸命な姿に胸が熱くなりました。（広報部 西村）

委員会活動

会員ならばどなたでも参加できます。
お気軽にどうぞ。

あんしん委員会

あんしん委員会は、地域で安心して生活していくために、さまざまな情報を集めて、親としてできる対策を話し合っています。各指定避難所に設置されている「コミュニケーション支援ボード」の素案作成、平成29年「災害への備え」を配布、昨年度は「災害への備えハンドブック」を配布しました。

知的障害児者の親として、災害時等の備えの情報交換や対策など、制度から身近な不安や分からないことなどを気軽に話し合っています。

はたらく委員会

はたらく委員会は、学校を卒業した後の本人たちの日常での出来事など、「はたらく」「生活」「余暇活動」についての悩みや不安などを気軽に話せる親だけのお話会を行っています。また、本人たちも一緒に運動不足解消を目指してウォーキング、茶道などの体験を親子一緒に行っていきます。親子活動は親だけではなく、本人同士のコミュニケーションの場にもなっています。

今年度も、定期的なお話会と親子参加できる活動を企画していきます。

せいかつ委員会

せいかつ委員会は、知的障害のある人の「大人の暮らし」について、考えます。どこで誰と暮らすか？余暇の過ごし方は？お金の使い方・管理の仕方は？大人としてその人らしく暮らしていくとは、どういう事かを話し合います。権利擁護、意思決定支援の具体的な形を皆で考えます。「親なき後」はその大人の暮らしの続きとして、何が必要かを学びます。

その他、今年度は「この子の記録」の改訂版を作成する予定です。

こども委員会

こども委員会は、学齢期の子どもを持つ親を中心に活動しています。学校生活や日常の悩み、進路についての情報交換なども行っています。パラスポーツ体験など、子どもが楽しめるイベントも行ってきました。

今年度は施設見学会を開催し、たくさんさんの会員のご参加がありました。今後の委員会では、「きょうだい児や家族支援の勉強会」「児童発達支援・放課後等デイサービスについて」など身近なテーマでの話し合いを予定しています。

千葉県手をつなぐ育成会 権利擁護委員会勉強会 みんなで見守る 地域での多様な暮らし

3月7日（金）千葉県社会福祉センターで、【県独自のグループホーム施策と県内グループホームを取り巻く実情と課題】のテーマで、千葉県手をつなぐ育成会権利擁護委員会勉強会が行われました。

【千葉県健康福祉部障害福祉事業課課長 丸山隆氏】

現状はグループホーム（以降G H）数は増加、待機者数は減少している。県独自のG H関連施策として、運営費補助、家賃補助、相談支援等を行っている。今後の課題と方策として、ニーズに即した多様な暮らしの実現、支援の質確保、虐待の防止に努めていく。

【市川圏域障害者グループホーム等支援ワーカー 岩崎淳氏】

G H等支援ワーカー事業開始から20年が経ち、新たに、強度行動障害、医

療的ケア、高齢に対するチーム作りに取り組んでいる。またG H以外の障害福祉サービスや、医療機関など支援に必要な関係機関の充実・連携によって、暮らしの選択肢を増やすことが大切。障害のある子どもの成長を、みんなで見守れる地域社会や、親戚のような感覚になれる長い付き合い合い、その先に、本当に普通と言える暮らしの場がある。



【社会福祉法人まつど育成会相談支援事業所カウラ 大友有理子氏】

G Hは増えてきたが、障害者の特性でホームが分かれていない。また支援者をどう確保するのか、支援者はいても障害者支援に慣れていない、専門性が育っていないのも課題。この仕事を選んでくださった方々を大切にしたい。そのためにはチームで学び合い、ホームに専門性と権利擁護の視点を育てる仕組み作りが必要。

（副会長 神山）

70th anniversary

千葉市手をつなぐ育成会は 今年度70周年を迎えます。

9月28日（日）、い・さ・く・さへ1階ホールにて記念祝賀会を行います。
70周年記念誌も発行予定です。